

## 独創は闘いにあり

西澤潤一著 プレジデント社 1986

ネットワーク情報学部教授 田中 稔

20年以上前の発行だが、読めば読むほど味の出る本、今読んでもこの本の筆者の感慨や強い思いが伝わってくる。

インターネット社会の現代ではもはや当たり前となっている光通信、その光ファイバーの有効性に初めて気づき、「発明者」として知られている西澤潤一東北大学名誉教授。そのほかにも半導体レーザーや発光ダイオードなど数えきれないほどの発明があり、一時期、ノーベル賞候補といわれたこともあったらしい。この本は彼の半生を綴ったものであるが、独創的な仕事を行う苦悩、闘いなどが良く伝わってくる。そして所々で引用される語句や言葉が印象的である。

「愚直一徹、大道無門」、「自分をごまかさないと、私は確かにかなりの頑固者である」、「頭をいじめぬいたからこそ、“頭が強く” なった」、「問題意識を持つ」。さらに、独創を育む教育に関しては、「便利な道具がふんだんにある教室からは、独創的な人材も独創技術も生まれはしない」、「わかっていること、十二分に予測しうることを（教育の）対象とすると同時に、一方では、わからないこと、未知なるものに取り組む姿勢を養っていかなければならない」と、学問や研究をすぐ役に立つものだけに限定する近視眼的な見方をしがちな企業経営者達に釘を刺す。今時の若者たちに対しては、「非常に保守的であることに腹を立て、いらだちを感じている」、「早急に「できない」とあきらめないこと、「できる」と考えていないかぎり、独創の芽は生まれぬ」と、助言している。



その他の推薦図書：

『数学者の休憩時間』

藤原正彦著 新潮社 1993 (新潮文庫)



『フェルマーの最終定理』

サイモン・シン著 青木薫訳  
新潮社 2006 (新潮文庫)



『成長の限界 - 人類の選択 -』

ドネラ・H・メドウズ他著 枝廣淳子訳  
ダイヤモンド社 2005



『持続力』

山本博著 講談社 2006  
(講談社+α新書)

